

FinalData 特別復元版

linux をクライアントにできる . linuxslave を実行する .

./linuxslave: error while loading shared libraries: libstdc++-libc6.1-1.so.2: cannot open shared object file: No such file or directory と出るとき

RedHat7.3

```
rpm -ihv compat-libstdc++-6.2-2.9.0.16.i386.rpm -alh
```

Fedora Core 5 にて

```
yum install compat-libstdc++-296
```

Accerlated Knoppix 1.0 にて (Knoppix4.02) にて

```
cd /usr/lib  
ln -s libstdc++-libc6.2-2.so.3 libstdc++-libc6.1-1.so.2
```

UTF のファイルが文字化けする

テクニック

MS-Windows で稼働する FINALDATA といえども、救出には Linux を使うのは基本だ . 理由 :

1. MS-Windows はマウントせずに使うということができないからだ .
 1. マウントせずに RAW DATA から読むか , READONLY でマウントするかしてから作業をするべきである .
2. MS-Windows はマウントすると , 勝手に何をするかわからない .
 1. これができない MS-Windows は、繋げたら勝手に Thunb.db を作ったり , chkdsk をかけたり、
3. 異常のあるファイル構造は見えなかったりする .
 1. 同じディスクを FINALDATA で読ませて , Linux だとパーティション検出が 2 つされ、そのうちの 1 つは偽パーティションであったが、MS-Windows だとその偽パーティションしか検出しなかった経験がある .